opusdei.org

9月28日、エチェバ リーア司教の説教

アルバロ・デル・ポルティー リョ列福感謝ミサにおける説 教。オプス・デイ属人区長ハ ビエル・エチェバリーア司教 (マドリード、2014年9月28 日)

2014/10/27

「わたしがあなた方を愛したように 互いに愛し合いなさい。これがわた しの掟である。」ut diligátis ínvicem, sicut diléxi vos(ヨハネ 15,12)。

1. 主は、ご聖体を制定されるとき御父の永遠の御慈しみと、御手による被造物と救いの神秘的なご計画を、父なる神に感謝なさいました。高間で先取りされ十字架上で表明された無限の愛を感謝しましょう。そして主に尋ねましょう。主よ、御身が私たちを愛されたように愛するため、

私たちはどのように振る舞うべきなのでしょうか。御身がペトロやヨハネを愛されたように、また聖ホセマリアと福者アルバロが私たち一人ひとりを愛したように。

ドン・アルバロの聖なる生涯を見つ めると、神の御手と「私たちを造り 変える愛の賜」聖霊の恩恵を見出し ます。新福者が度々繰り返していた 聖ホセマリアの祈りを心に刻みま しょう。「主よ、御身をお愛しする とき私がもつべき愛をお恵みくださ い。| [1] こうして、神の愛と私の ささやかな努力で人々を愛すること ができるでしょう。他の人たちは、 ドン・アルバロの日々の歩みにみら れたように、私の生活に神の御慈し みを見て取ることができるでしょ う。既に、心から愛しているここマ ドリードで、貧しく見捨てられてい るような人達と連帯していたことに 神の御憐れみが鮮明に反映されてい ました。第二朗読では、私たちの内 なるキリストが私たちに「憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容」(コロサイ3,13)をまとわせてくださることを思い起こさせ、喜びに満たされました。

兄弟姉妹の皆さん、より大きな愛を 願いつつ、神に感謝しましょう。若 いときから分別に富んでいたドン・ アルバロは若干25歳で、聖ホセマリ アにとってのsaxum「岩」、つまり その片腕になっていたのです。ある 日、その謙遜がにじみ出ている次の ような手紙を創立者に送っていま す。「神は何と善いお方であること でしょう。岩というよりも頼りない 泥に過ぎない私ですが、(神の御慈 しみを信じて)あなたに信頼してい ただけることを熱望しておりま す。| [2] このような神の御慈しみ を固く信じてこの世の歩みを続ける ことができます。「あなたの慈しみ とまことのゆえに、御名に感謝を捧 げます | (詩篇137,2) と答唱詩篇で 唱えました。至聖三位一体に心からの感謝を捧げましょう。みことばのうちにイエス・キリストご自身が私たちと共にお留まりになり(コロサイ3,16参照)、その霊によって私たちを喜びで満たし(ヨハネ15,11;ルカ11,13参照)、信頼を込めてAbba, Pater, パパ、お父さま、と呼びかけながら主に向かうことかできるようにしてくださったからです。

2. ドン・アルバロはオプス・デイ創立者の教えと体験に基づいて「地上の『三位一体』が天国の三位一体へと導いてくださるでしょう」[3]と繰り返していました。イエス、マリアとヨセフが私たちを御父と聖霊へと導いてくださいます。イエスの聖なるご人性のうちに神性が不可分に一致していることを見出します[4]。

聖家族!第一朗読の言葉「母の胎にいる時から私たちを高め、いつくしみをもってわたしたちをたかめられ

る | と主を賛美します。聖書は誕生 以前に神が私たちを愛しておられた と語ります。ヴェルギリウスが、生 まれたばかりの赤ちゃんを歌った詩 を思い出します。Incipe, parve puer, risu cognoscere, matrem (Virgilius, Egloga IV, 60)「幼児よ、お前は母 の微笑みで母を知り始める。| 生ま れたばかりの赤ちゃんは、愛情に満 ちた母親の顔に宇宙を見出していき ます。この世に来たばかりの赤ん坊 には、自分を迎えてくれるこの微笑 が神の御慈しみの反映であることが 分かるのです。

教皇フランシスコが「家庭」のための祈りに当てられたこの日、パウロ六世がナザレで話されたように、communio dilectionis 「愛の交わり」[5]、福音の「学び舎」[6] である家庭のために全教会が願っていることに一致しましょう。家庭は、ドン・アルバロが子としての友情で結ばれていた聖ヨハネ・パウロ二世の

教えのように「愛の深い内なる力」 [7] で、「霊的に豊かな実り」[8] を もたらすところです

ドン・アルバロに感謝するときには そのご両親にも感謝しましょう。ご 両親は、ドン・アルバロを授かって 慈しみ育て、神の愛を受けとめ、神 の招きに応えるための単純で寛大な 心を準備されました。「わたしがあ なた方を愛したように互いに愛し合 いなさい。これがわたしの掟であ る。」ドン・アルバロはこの掟に徹 底して従い、その微笑で「大いなる 業を行う」 (シラ50.22) 神を賛美し ました。そして神はオプス・デイを 進展させつつ教会に仕える様にと、 聖ホセマリアの忠実な息子であり継 続者であるドン・アルバロをお使い になったのです。

多くの家庭が、聖ホセマリアか述べている「聖家族のような明るく朗らかな家庭」[9] であるように祈りま

しょう。神への感謝は、三位一体の 永遠の愛を反映しており、一人ひと りがありのままの姿で愛されている ことを実感できる所としての家庭 いう賜を通して捧げられます。今、 ここに同席している全ての父母に、 また子どもや老人、そして病人の世 話をしている全ての人たちにも感謝 しましょう。

家庭の皆さん、主があなた方を愛し ていらっしゃるのです。主は、教会 に対するキリストの愛の写しである 皆さんの結婚生活のうちに現存して おられます。あなた方の多くが、忠 実な歩みのうちに他の夫婦を寛大に 支え、たびたび難しくまた敵対的な 社会状況の下で前進するよう多くの 家庭を助けていることを知っていま す。頑張ってください。キリストの 証人となり福音宣教に励むことを世 界中が必要としています。愛するべ ネディクト十六世がおっしゃったこ とを思い起こしてください。「忠実

であり続けること、それが愛という ものです。」[10]

3. 聖パウロは「いつも感謝していな さい」(コロサイ3,15)、と勧めて います。福者アルバロは聖ホセマリ アに対してそうすべきだと考え、こ う強調しています。「感謝を一番よ く表すには受けた賜をよく使うこと にあります。」[11] 説教だけでな く、団欒や個人的な出会いなどあら ゆる場面で使徒職と福音宣教につい て語るのが常でした。私たちにもた らされた神の愛に留まるためには、 伝わり広まる神のいつくしみを、 人々と分かち合わなければなりませ ん。教皇フランシスコが述べてい らっしゃいます。「主は、祈りにお いて、この愛を感じさせてください ます。しかしまた私たちの生活に現 れる数多くの印や、道の途上で出会 う数知れない人々を诵しても神の愛 は実感されます。主に出会い、主の 招きを受けた喜びは、自分だけに留

まらず周りに広がっていきます。つまり教会に仕えるよう導かれます。」[12]

「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなた方を選んだ」(ヨハネ15,16)。

主は、先に愛したのはご自分であ り、イニシアティブを取るのは、い つもご自分であることを強調され、 その後で全ての人々に神の愛を伝え 広めるようにと私たちを派遣なさい ます。「あなた方が出かけて行って 実を結び、その実が残るようにと、 わたしがあなた方を選んだのであ る」(同上)。 Manete in dilectione mea. わたしの愛に留まり なさい(ヨハネ15,9)。実りを得る には、深く根をはると同時に主に留 まっていることが必要なのです。主 が弟子たちに仰せになっています。 「わたしにつながっていなさい。わ たしもあなたがたにつながってい

る。ぶどうの枝が、木につながっていなければ、自分では実を結ぶことができないように、あなた方もわたしにつながっていなければ、実を結ぶことができない」(ヨハネ15,4)。

昨日の列福式のために届いた愛する 教皇フランシスコからの書簡の一節 です。「信仰を自分だけのものにし

多くの天使たちと共に歩む私たちに は、父なる神の娘、子なる神の御 母、聖霊なる神の花嫁であり神殿で あられる聖母マリアが付添ってくだ さっています。聖母は、神の御母で あり私たちの母であり、家庭の元 后、使徒の元后です。聖母が、福者 アルバロにされたように、ペトロの 後継者の勧めに従うことを助けてく ださいますように。聖ホセマリア が、この大司教区でたいそう愛さ れ、崇敬されているアルムデナの聖 母に、度々お願いしていたように。

「主に愛されるがままになり、主の愛に心を開き、私たちの生活を主に導いて頂くことです。」[15] アーメン。

[1] 聖ホセマリア・エスクリバー・ デ・バラゲル『鍛』 270番。

[2] 福者アルバロ・デル・ポル ティーリョ、1939年7月13日、聖ホセマリアへの手紙。

[3] 福者アルバロ・デル・ポルティーリョ、1975年9月30日、司牧書簡。

[4] 福者アルバロ・デル・ポルティーリョ、1978年9月24日、オプス・デイ創立金祝の折の司牧書簡参照。

- [5] 福者バウロ六世、1964年1月5日、ナザレでの講話。
- [6] 同上。
- [7] 聖ヨハネ・パウロ二世、使徒的 勧告「家庭」41番。
- [8] 同上。
- [9] 聖ホセマリア・エスクリバー・ デ・バラゲル、「知識の香」22番。
- [10] ベネディクト十六世、2010年5 月12日、ファチマでの説教。
- [11] 福者アルバロ・デル・ポルティーリョ、1985年7月1日、司牧書簡。
- [12] フランシスコ、2013年7月6日、 パウロ六世ホールでの講演。
- [13] フランシスコ、2014年9月27日、マドリードにおけるアルバロ・デル・ポルティーリョの列福式の折

のオプス・	デイ属人区長ハビエル・
エチェバリ	ーア司教宛ての書簡。

[14] 同上。

[15] 同上。	0
----------	---

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/28-de-septiembre-homilia-de-mons-javier-echevarria/ (2025/10/28)